

地域の未来を共創する、いわて富士大学へ

～「学」を中心とした官民連携による地域ビジョン実現～
富士大学 地方創生プロジェクト

60th Anniversary

R7.10.21

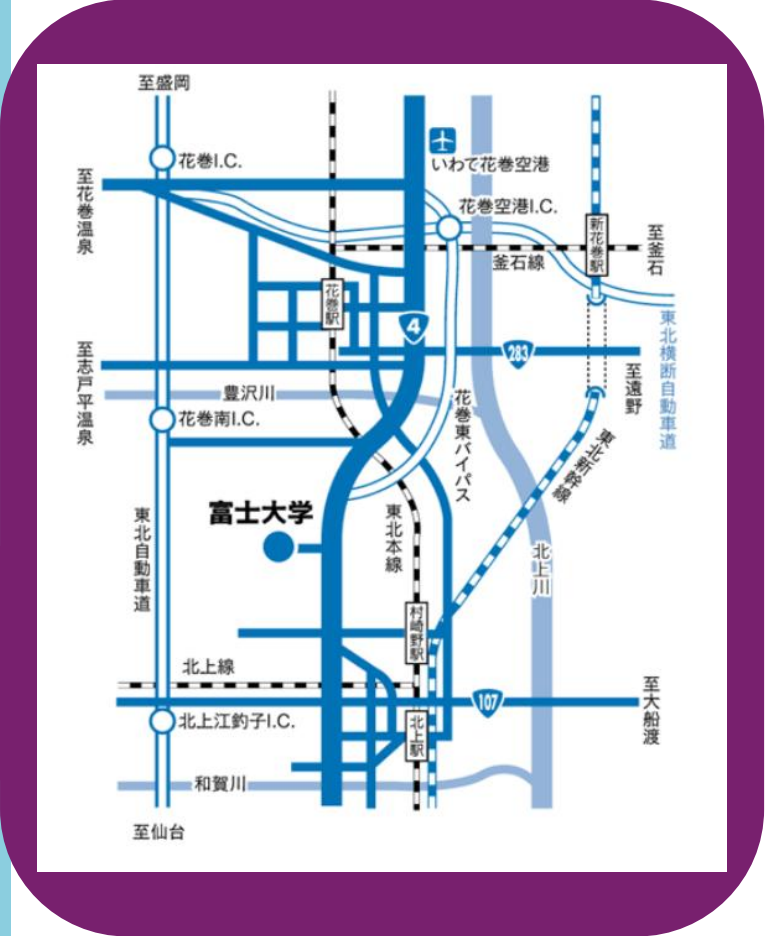
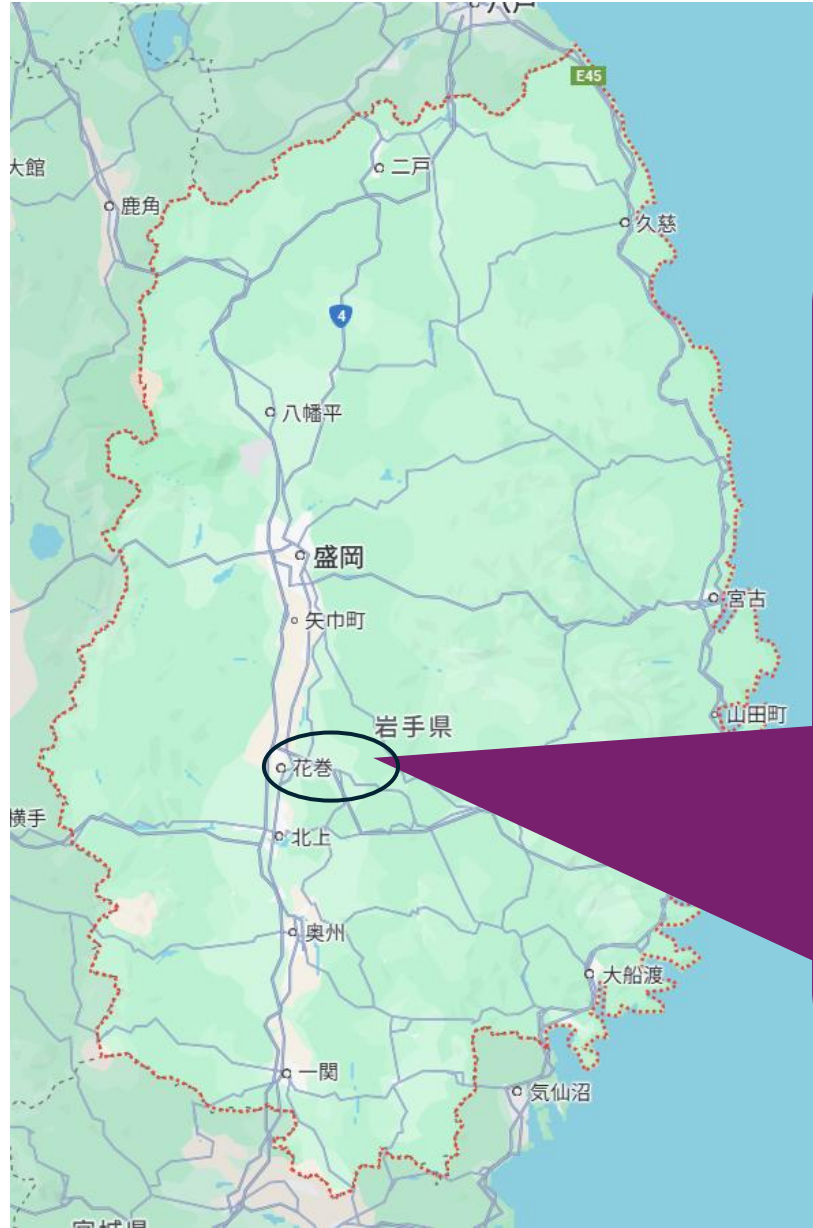
学校法人富士大学 新学部設置準備室

令和6年度大学・高専機能強化支援事業

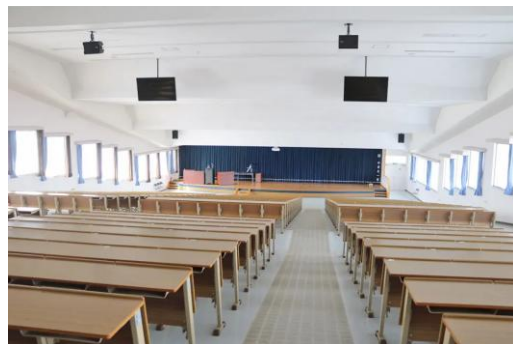
富士大学の現況

所在地	岩手県 花巻市下根子450-3
設立	1965(昭和40)年1月25日
設置学部	経済学部

	入学者数	収容定員	在籍者
2022年 (令和4年)	164	810	765
2023年 (令和5年)	173	810	747
2024年 (令和6年)	153	810	675
2025年 (令和7年)	163	810	617



地域の未来を共創する、いわて富士大学へ



地域の未来を共創する、いわて富士大学へ

2024年度の活動状況

新学部設置準備室の新設

富士大学内に新学部設置準備室を設置

盛岡オフィスを龍澤学館内に開設

人員の配置(新規雇用、兼務)を行い、合わせて執務環境整備を進めている

富士大学と龍澤学館による連携協定の締結

「学校法人富士大学と学校法人龍澤学館による包括連携協定」(2025年2月1日締結)
双方の知見・人的リソースを共有し、新学部設置準備を加速させることを目的とする

【連携項目】

- 1.教育活動に関すること
- 2.生徒・学生・教職員の交流に関すること
- 3.地域貢献に関すること
- 4.学生募集に関すること
- 5.広報活動に関すること
- 6.その他甲及び乙において必要と認めたこと

10年ビジョン・基本コンセプトの策定検討

いわて富士大学10年ビジョン

IFU(いわて富士大学)ビジョン2035:『挑戦』Keep challenging myself

「富士大学」から「いわて富士大学」へ

かつて「花巻空港」が「いわて花巻空港」に変更し、岩手県が継続的に「いわて」という平仮名でのネーミング展開を行っており、「いわて」を冠につけることにより、所在地、活動フィールドが明確になり、県内全域をキャンパスに地域の持続的発展を使命とする「オール岩手体制」の構築を目指す

 龍澤学館グループ

 富士大学

富士大学 将来構想

2024年(令和6年)9月19日(木曜日)

岩手日報



龍澤学館グループの統一ロゴマークを披露した龍沢尚孝理事長(右から2人目)ら。富士大の新学部構想も示した

27年4月目標

富士大2学部新設構想

スポーツ健康科学

デジタル創造

学校法人龍澤学館(盛岡市)の龍沢尚孝理事長は18日、花巻市の富士大に「スポーツ健康科学部」と「デジタル創造学部」の2学部を新設する構想を明らかにした。同大や本県のスポーツの盛り上がりやヘルスケア産業やデジタル人材の育成につなげるのが狙いで、2027年4月の開設を目指す。募集定員など詳細は今後決める。

盛岡市大沢川原の盛岡医療福祉スポーツ専門学校で龍澤学館グループ統一ロゴマークの完成発表会を開き、説明した。

富士大は現在、経済学部の1学部で、1学年の定員は190人。硬式野球など各種スポーツの強豪としても知られる。2学部の新設で、注目が高まる産業の発展や人材の育成につながる方針だ。デジタル関連の組織改編などを支援する文部科学省の事業に本年度採択されている。龍沢理事長が運営法人の理事長を務める富士大のほか、同学館は県内で中学、高校、専門学校計13校を運

文部科学省令和6年度大学・高専機能強化支援事業(学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援)

事業計画名	富士大学「スポーツ健康科学部」及び「デジタル創造学部」の設置計画
事業期間	令和6年度～令和12年度
新学部設置	令和9年度
交付申請額	1,532百万円

支援1 学部再編等による特定成長分野への転換等の構想について

令和6年度 富士大学



事業計画名 富士大学「スポーツ健康科学部」及び「デジタル創造学部」の設置計画					
改組予定年度	令和9年度	設置等組織名	スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科(仮称(定員100名)) デジタル創造学部 デジタル創造学科(仮称(定員50名))	入学定員増数(合計数)	150名
所在地	岩手県花巻市	改組内容	学部の新設	入学定員減数(合計数)	90名



いわて富士大学が目指す姿 地域の未来を共創・まちの未来を担う若手リーダーの育成

産学官民金連携による「共創力」の発揮

■ 産（企業）との連携

- スポーツ産業連携
- スポーツ観光商品開発
- eスポーツ産業育成
- XR・メタバース活用

■ 金（金融機関）との連携

- スポーツ関連スタートアップ支援
- eスポーツビジネス投資ファンド
- 地域クラウドファンディング



■ 学（学術）としての発信

- 女性アスリート支援（順天堂大学連携）
- 地域アスリート健康データベース
- 地域DXモデル研究

■ 官（行政）との連携

- 地域健康増進プログラム
- 都市ブランド戦略支援
- 地方創生人材育成事業

■ 民（地域住民・NPO）との連携

- 市民スポーツ・健康講座
- 地域協働イベント（学食・カフェ活用）
- 障がい者スポーツ普及活動



岩手のスポーツ拠点！花巻キャンパスのバリューアップ
「スポーツを科学する×スポーツリゾートシティ」を共創！



県都盛岡をより強く!!盛岡サテライトキャンパス新設
スポーツとICTがつなぐ地域共創型キャンパス

スポーツ健康科学部（令和9～）

- 女性スポーツ研究センター新設（R8～）
- 健康科学、アスリート育成
- 地域スポーツチームとの連携
- スポーツを通しての高大連携

経済学部（令和9改組）

- 県内唯一の経済学部として存在感発揮
- 地域経済をけん引するリーダーの育成
- PBLや産学連携による実践的な学び
- 地域ブランド戦略、マーケティング分析

デジタル創造学部（令和9～）

- デジタル人材の育成
- AI活用、地域DXによる課題解決
- eスポーツを核とした市街地活性化
- デジタルコンテンツの展開

花巻キャンパスのバリューアップ

スポーツ健康科学部（仮称）…花巻キャンパス

スポーツ×健康×デジタル系

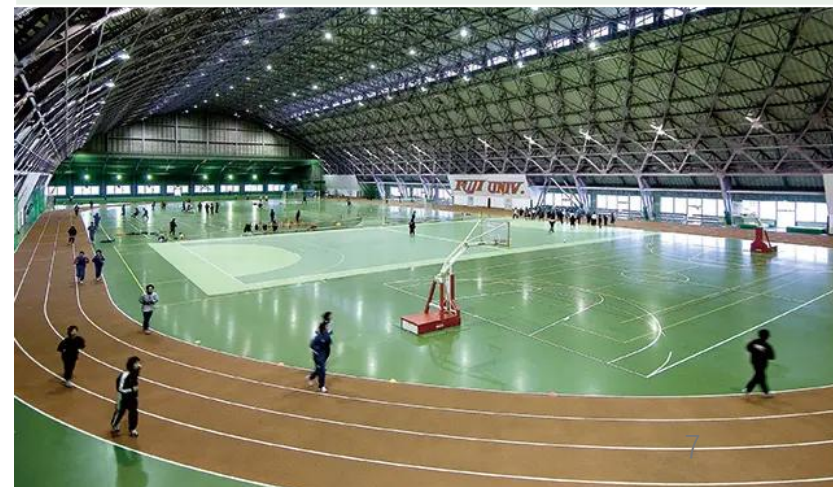
スポーツ分野におけるDXの推進により、生涯を通じた健康づくり／well-beingの実現に貢献できる人材の養成を目指します

設置場所	岩手県花巻市	主な施設整備（構想）
設置 予定年度	令和9年度	①スポーツ健康科学に関する実験設備が整備された研究棟の新築（例、高低酸素室、運動生理学実験室、バイオメカニクス測定分析室等） ②スポーツ健康科学実習施設（現在のスポーツセンターと記念体育館）の改築 ③スポーツ科学実習設備（高性能高速度カメラ、画像分析ソフトウェア、統計分析ソフトウェア等）の充実 ④インターネット環境充実のための高速ネットワークとスポーツ画像データ収納用の大容量サーバーの設置 ⑤スポーツ医科学実験設備（体組成分析装置、脳波計、光トポグラフィー等）
総工費 （概算額）	20億円	

女性スポーツ研究センター

富士大学を女性スポーツの研究拠点および実践力の強化を図るべく、学部設置に先行して女性スポーツ研究センターを令和8年度に設置します。

運営については、順天堂大学と連携し、知見を活かしながら進めてまいります。



花巻キャンパスのバリューアップ 「スポーツを科学する×スポーツリゾートシティ」を共創！

花巻キャンパスのリニューアル構想



スポーツ健康科学部（仮称）のトピックス



学校法人順天堂 順天堂大学からの新学部設置への
全面協力が内定しました

小笠原悦子氏 学部長候補として内定

小笠原 悦子 氏

順天堂大学女性スポーツ研究センター長

順天堂大学大学院

スポーツ健康科学研究科 特任教授

研究分野 スポーツマネジメント、女性スポーツ
出身学校 中京大学 体育学部 1981年
出身大学院 オハイオ州立大学大学院 教育学部 1997年
取得学位 学術博士(Ph.D.) 1997年



1. 学校法人順天堂と「学術指導契約」を締結し、令和7年度、令和8年度、小笠原悦子氏の派遣を受けることが内定
2. 順天堂大学女性スポーツ研究センターとの連携を令和8年度にスタートする
3. 新学部設置準備にあたり、令和7年度より順天堂大学事務方のノウハウ享受する。
4. 令和7年8月27日に、富士大学と順天堂大学との大学間連携協定を締結

女子高生の部活支援



協定書を手にする(左から)和気学部長、龍澤学長、小笠原特任教授

【花巻】 花巻市下根子の富士大(龍澤尚孝学長)と東京都文京区の順天堂大(代田浩之学長)は27日、大学間連携協定を締結した。協定の1環として、富士大は女性のスポーツ・健康を研究・支援する組織「女性スポーツ研究センター」を2026年4月に設立し、地元的女子高生の部活活動の

富士大と順大 連携協定締結 新学部開設にも弾み

主な連携内容としては、同センターを設立して女性アスリートのコンディショニングに関する研究・啓発活動や女性リリーターの育成、地域の健康増進活動を推進するほか、地元高校の女子部活動の指導や支援活動などに取り組む。このほか▽同分野における教職員・学生の相互交流▽教育プログラム、施設・設備の相互利用による教育研究の質的向上▽教育研究に係る講演会・シンポジウムの共同開催などを予定する。

富士大で行われた連携協定の締結式には、龍澤学長、順天堂大スポーツ健康科学部の和氣秀文学部長、同センター初代センター長と富士大スポーツ健康科学部長に就任を予定する順天堂大女性スポーツ研究センター長の小笠原悦子同大学院特任教授が出席し、協定書を取り交わした。

龍澤学長は「連携協定は新学部開設の後押しとなり、地域の課題解決や発展、地方創生へとつながる。教育研究活動、人材育成を通して社会に貢献したい」と決意を示し、小笠原特任教授は「壮大な夢を実現したい。富士大スポーツ健康科学部から次代を担う人材が巣立ち、世界へと羽ばたくことを願っている」と語った。

富士大総定員200人増へ

富士大(花巻市、龍澤尚孝学長)は、2027年度新設するスポーツ健康科学部の1学年の定員を100人とする方向となった。4学年の総定員は28年度開校のデジタル創造学部と合わせ、現行の経済学部単科の760人から3学部計960千人規模に拡大。26年度には女性スポーツ研究センターを新設する計画で、都市部への流出が課題となっていたスポーツ人材の定着や健康増進など幅広い効果を狙う。

同市下根子の同大で27日、女性スポーツ研究センターを国内で初めて設置するなど先進的な知見を有する順天堂大(東京)と連携協定を締結。

経済単科→3学部

女性スポーツ研究センターも新設

▽教職員・学生の相互交流▽同センターの初の支部を富士大に設立▽地元高校の女子部活動の指導支援▽教育プログラム、施設・設備を相互利用し教育研究の質的向上などを取り組むとした。

富士大の1学年の定員は現在、経済学部の190人。スポーツ健康科学を100人、デジタル創造を50人、経済は90〜100人とする方向で国への申請といった手続きを進める。

硬式野球など全国的な強豪を知られる同大で、トップ選

▽教職員・学生の相互交流▽健康福祉分野、スポーツシナジなど幅広い分野で活躍できる人材育成を目指す。障害者スポーツの普及活動、部活動の地域展開支援、スポーツトリニティ振興も見据える。

2学部新設に先立つ26年度に女性スポーツ研究センターを新設する。14年に文部科学省の支援事業で順天堂大に置かれたセンターの取り組みの成果を生かし、女性アスリートとのコンディショニングに関する研究・啓発や女性リリーターの育成、地域の健康増進を

富士大と順天堂大の主な連携内容

- スポーツ健康科学分野での教職員・学生の相互交流
- 富士大内へ「女性スポーツ研究センター」の設立
- センターを活用した地元高校の女子部活動指導支援
- 教育プログラム、施設・設備の相互利用による教育研究の質的向上
- 教育研究にかかる講演会・シンポジウムの共同開催

等原悦子・同大学院特任教授が就く予定。小笠原氏はこれまでつなかりを生かし、誰もが安心して、スポーツに関われる社会の実現を目指す。大谷翔平選手を生んだ花巻から、次代を担い世界へ羽ばたく人材を育てると語る。

富士大はセンターと学部開設に合わせ、学生食堂や地域健康増進施設を組み込んだ新設棟や、屋内施設に学術研究に対応した専門機器の配置などキャンパスの整備を計画している。

龍澤学長は「東北にはスポーツ健康科学部を有する大学が限られ、高校・大学卒業時の若い女性の流出も大きな課題だ」と指摘。「女性のロールモデルづくりや地方創生の拠点としていきたい」と語る。

スポーツ健康科学部の役割

岩手の自然環境を生かし健康寿命
日本一の地域を目指したい

健康寿命を伸ばすためには栄養、運動、
休養をもとに心と体のバランスを保つ
ことが重要である。

自然環境に恵まれ、食料自給率100%
を超え食材の宝庫である本県は本来、
食が豊かな地域であり、また、アウトドア
スポーツ含めあらゆるスポーツに適した
環境を有し、県民の睡眠時間も全国トッ
プ5に入るが、塩分の過剰摂取、運動不
足、メンタルヘルスの問題を抱える割合
が高く、健康寿命が男女とも全国最下
位となっており由々しき事態である。

この事態を打開するためにスポーツ、
健康について科学的アプローチを行い、
その教育、研究成果を地域貢献という
形で生かしていきたい。

健康スポーツ、生涯スポーツの
先進地域を目指したい

日本のスポーツは高校の部活動により
競技力は向上するものの昔気質の指導
がいまだ中心で、健康スポーツ、生涯ス
ポーツという観点ではむしろ妨げになっ
ている。

その結果、高校卒業後多くの人がス
ポーツを辞めてしまい、運動すらしなく
なる。また、トップアスリートはスポーツ
メンタルヘルスの課題、セカンドキャリア
の課題を持っている。女子アスリートは
身体的問題を持っている。

スポーツの本来の社会的役割である
健康増進や楽しみとしての要素を広げ
ていき、一生涯スポーツに親しみ、健康
であり続ける地域を目指したい。

障害者スポーツの推進をしたい

スポーツの持っている可能性を障害者
に広げ、障害者が身体的、精神的ハン
ディキャップを乗り越えスポーツをする
ことにより、様々な経験値を積み、社会
で活躍できる後押しをしていきたい。

スポーツを通して社会課題の
解決、地域貢献をしたい

スポーツ庁が中学、高校の部活動を地
域に移行する政策を掲げている。教員の
働き方改革と相まって地域での受け皿
が重要となってくる。大学としてこの受
け皿となり地域貢献を推し進めたい。

盛岡サテライトキャンパスの新設

デジタル創造学部（仮称）

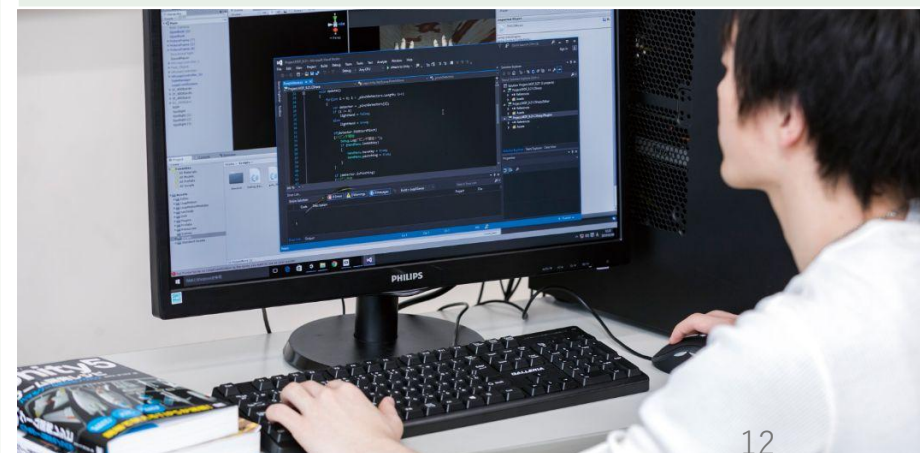
ビジネス×地域×デジタル系

デジタルスキルとアントレプレナーシップを身につけ、「事業」「未来」「地域」を創造できるDX推進人材の養成を目指します

設置場所	岩手県 花巻市・盛岡市	主な施設整備
設置 予定年度	令和9年度	①ITセンター実習室（プログラミング、数値計算、統計分析などのソフトウェア関連） ②ハード・ソフト実験室（機械学習に耐えられるGPUを搭載したPCの設置） ③認知情報処理実験室（ロボット・VR、メタバース・視線計測装置・全方位カメラ） ④ラーニングコモンズ（共同学習やプレゼンテーションで使用、少人数から多人数まで対応できるスタジオ） ⑤データサイエンス教育センター（人工知能、コンピュータ、ネットワーク、システムなど、ICTの時代を拓くバラエティ豊かな先端研究）の設置。
総工費 （概算額）	10億円	

e-スポーツ・スタジアム

Well-being社会の実現に向けた取り組みの一環として、盛岡市中心部に「e-スポーツ・スタジアム」の設置を計画しております。e-スポーツ・スタジアムの運営をとおして、この分野の知見を蓄積し、学問としての確立を目指すとともに、誰もが一緒に競技を楽しむことにより、年齢や性別、身体的なハンデキャップなどを超えた社会参画を促します。



地域の未来を共創する、いわて富士大学へ



取組の意義とまとめ

花巻キャンパス改編の意義～スポーツ科学&リゾートによるイーハトーブ花巻のバリューアップ～

都市ブランド・拠点化の推進

- 花巻が「スポーツ・健康・研究の拠点都市」として全国的な認知を獲得
- 都市イメージ向上により、行政施策（地方創生、定住促進、観光戦略）全体に波及
- 順天堂大学との連携による最先端のスポーツ医科学・教育プログラム導入

健康増進と市民福祉への貢献

- 地域住民の健康づくりや運動習慣の定着を促進
- 健康寿命の延伸や医療費の抑制
- 公開講座・指導者育成講座⇒生涯学習・地域福祉に直結

若者・学生の定着と人口流動の活性化

- 学生・教員が集まり、若年層人口の維持・増加を支援
- 地域行事・イベントを通じて、交流人口が拡大
- 高校生・若者にとって「学びたい大学・関わりたい地域」

女性活躍とジェンダー平等の推進

- 「女性スポーツ研究センター」による女性アスリート支援拠点化
- 女性の健康・メンタル・キャリア支援を強化⇒地域社会に寄与
- ジェンダー平等の推進が都市評価の向上にもつながる

産業・観光への波及効果

- 合宿・スポーツ大会による宿泊・飲食・交通への経済効果
- 花巻温泉・自然環境と連携した「スポーツツーリズム」展開
- スポーツ関連産業やスタートアップ育成

想定される取組ないし効果の例示

- 全国規模のスポーツ大会・学会・研究会の花巻開催
- 順天堂大学との共同研究プロジェクト（例：高齢者の健康増進、運動データ解析）
- 花巻市内での「学生フェス」や「市民×学生の健康教室」の開催
- 「女性アスリート向けサポートプログラム」の実践、「女性スポーツ国際シンポジウム」の開催
- スポーツ合宿+花巻温泉・宮沢賢治ゆかりの観光コースのセット商品開発
- 宿泊・飲食・交通など地域消費が増加 ⇒ 新たな観光ブランド「スポーツツーリズム花巻」確立

★オール岩手の地方創生の動力に!!
★若者・女性、高齢者も含め誰もが
安心して住み続けられる地方の
構築に寄与

盛岡サテライトキャンパスの意義～より優しく、より強い、県都盛岡の原動力として・・・地方創生、地域課題解決～

若者人口の増加と地域活性化

- 大学の学部を新設・移転、誘致することにより、学生や教職員が新たに盛岡市に居住・通学するようになり、**若年層人口および勤労者世帯の流入**が期待される
- 地域商業、飲食、賃貸住宅市場への経済波及効果が大きい

「産学官連携」によるイノベーションの促進

- IT企業との連携を通じて、AI・IoT・デジタル技術に関する研究・開発拠点が形成される
- 地元企業との共同研究やスタートアップ支援など、新たな産業創出の土壌が生まれる

eスポーツを核とした新たな観光・交流の創出

- 全国・国際大会開催地として機能し、若年層を中心に観光客(聖地巡礼)の呼び込みが期待できる
- 「eスポーツ×観光」「eスポーツ×教育」など新たなコンテンツ産業の発信地となる

盛岡の都市ブランド力の向上

- 「デジタル」「クリエイティブ」「未来志向」というイメージによる、首都圏、海外からの注目度向上
- 若者にとって「学び」「遊び」「仕事」が一体化した魅力的な都市としての県都盛岡の評価の向上

「官民連携による市街地活性化」

- 盛岡中心市街地に学生・若者が集まることで、街の活力の創出に寄与する
- 公共交通機関の利用促進やインフラ整備の動機付けとなる

想定される取組ないし効果の例示

- 学生の生活消費による、飲食店、スーパー、書店、公共交通機関などの利用拡大
- 学内の教職員、研究補助員、学食・売店スタッフ、清掃・警備などの雇用増加
- 盛岡近郊の高校生が地元で進学でき、首都圏流出を抑制
- 社会人向け講座や公開講座を通じて、地元企業の社員や住民のスキルアップを支援 … リカレント教育
- 観光、IT、環境技術、食産業などで産学連携が進み、新しい産業や商品が生まれる可能性
- 学生がPBLをとおして、地域フィールドワークに参加し、地域課題解決に向けたアイデアを提案
- 図書館やホールなどキャンパスを市民に開放し、学会・講演・コンサートなどの文化イベント開催
- 留学生の受け入れにより、盛岡に多文化交流の機会が増え、地域の国際化を促進

★オール岩手の地方創生の動力に!!
★若者・女性、高齢者も含め誰もが安心して住み続けられる地方の構築に寄与